

ゼロ レジ袋0のまちへ

～海のない新見市を、海的环境に配慮したまちにするための挑戦～

岡山県立新見高等学校 14期生有志

1. 取り組みを始めたきっかけ

「Laut Bali yang indah telah hancur! (バリ島の美しい海が壊されてしまっている)」

「Lautan kita terhubung. Aku ingin kita bertindak untuk melindungi kekayaan laut yang bisa kita mulai dari NIIMI! (世界の海はつながっている。新見市から海の豊かさを守るために行動してほしい)」

この言葉は、私たちの仲間の一人、中村太郎君がインドネシア語で訴えたものだ。中村君はインドネシアのバリ島で生まれ育ち、中学生の時に新見市に移住した。バリ島に里帰りした際に、プラスチックごみにあふれたビーチを見ていた彼の言葉は実感に溢れていた。

私たちの通う新見高校は選挙年齢が18歳に引き下げられたのをきっかけとして主権者教育に力を入れている。この授業ではSDGsについて学び、その視点を生かして地元・新見市をより魅力的なまちにするための方策についてグループで考え、プレゼンテーションを行う。中村君のグループのプレゼンテーションを聞いた私たち新見高校14期生は、その思いを形にするため、有志を募り、行動を開始した。



市の現状や課題への対策状況について
市役所の担当の方へインタビュー



海的环境を守れる新見市になることを
プレゼンテーションする中村君

<ミッション>

地域から排出されるプラスチックごみや、河川を通じて海に流れ出るごみを削減する。特にレジ袋を使わない新見市を達成することを通して、環境に配慮したまちとして新見市を世界に誇れるまちにする!

2. 川ごみの清掃・調査

新見市は一級河川である高梁川の源流に位置しており、新見市の河川に流れるごみはこの高梁川を通じていずれ海に流れ出てしまう。私たちは新見高校の脇を流れる木谷川（高梁川水系）で清掃と調査を行った。調査では協力いただいた水島地域環境再生財団の指導の下で拾ったごみを分類した。私たち生徒16名、新見市生活環境課の方2名、水島地域環境再生財団の方2名、新見市環境衛生協議会の方2名、倉敷市職員の方1名、計23名で清掃を行い、時間は30分程度と短時間だったにも関わらず、大型のポリ袋5袋超と袋に入らない大型のホースなどが回収され、その量に驚いた。最も多く回収されたのはペットボトル（62本）で、回収したごみの多くがプラスチック製のものであった。レジ袋などプラスチック製の袋は多くなかったが、川を流れるうちに破碎され、小さくなってしまいうためあまり回収されないと水島地域環境再生財団の方が教えてくださった。（調査結果の詳細は補足資料①）



3. ポイ捨て・不法投棄防止看板の作製、設置

新見市生活環境課の協力を得て、河川へのポイ捨てや不法投棄禁止を呼びかける看板を作製した。有志生徒が考えた30種類のデザイン案から2種類を選び、より効果的なものになるように話し合いを重ね、デザインを完成させた。話し合いにあたっては新見市生活環境課の方からのアドバイスをいただいた。最終的には絵の得意なメンバーが描き上げ、印刷業者に看板にさせていただいた。

現在、設置されている看板には老朽化して効果の見込めないもの一定数あり、完成した看板2種類10枚を新見市内の特にごみの多そうな箇所に設置した。



新見市内の河川の様子



市内の老朽化した看板



デザイン案の改善を話し合う

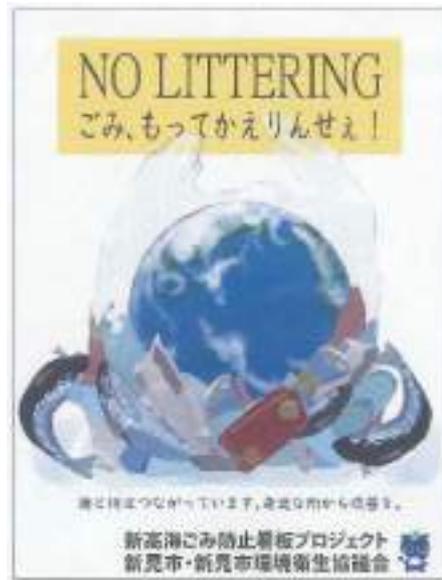
<最初の段階のデザイン案>



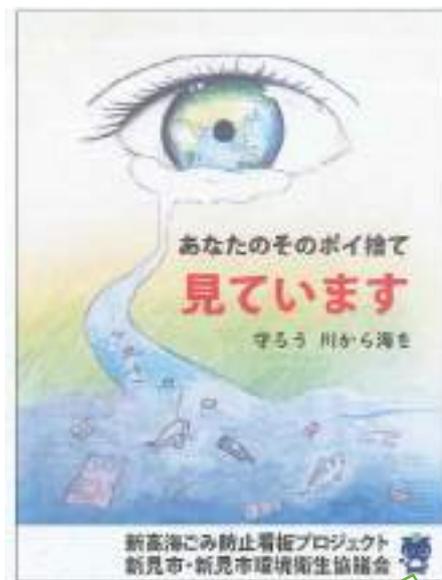
- レジ袋へ問題意識を持たせる図案
- 外国の方も読めるように英語で
- 弱った魚やメッセージを入れて、意図をわかりやすく



<最終的にできあがった看板>



- 涙を川と海に見立てて
- 目を入れることで、ポイ捨てする人にプレッシャーを
- 眼球を地球にすることで問題意識を喚起



新見市のマスコットキャラクター「にーみん」も使いました



完成した看板（左）と老朽化した看板（右）
コンビニの裏などごみの多い箇所に設置しました。

4. 新見市議会へプラスチックごみ削減を訴える陳情書を提出

新見市から排出されるプラスチックごみを削減するため、私たちは身近にあって個人の意識で削減しやすいレジ袋に焦点を絞った。そして、レジ袋の利用を減らすための3つの具体的なアイデアをまとめた陳情書を新見市議会に提出した。

アイデアの具体的な内容は以下の通り、

【陳情内容】

※実際の陳情書から抜粋

プラスチックゴミを無くし、環境に配慮した暮らしができる新見市を目指して

①エコバックの利用促進のため、児童・生徒・学生への無料配布

②レジ袋有料化の意義についての広報活動

⇒エコバックの利用呼びかけや市内各所への掲示板設置

③エコマネー制度の導入 ⇒レジ袋辞退者へのポイント付与と割引券の配布

①は、新見高校生がエコバックをデザインし、市内の児童生徒を通じて家庭に配布するというもの。各学校で配布していただく際に、レジ袋有料化の理由や海ごみの現状などを伝える環境教育を行うことによって、海の環境への関心を高めると同時に、エコバック利用率を上げることがをねらいとした。

②はレジ袋が有料化されたとはいっても、実際には2～3円で販売されているので、安価であれば有料でもレジ袋を使い続ける人が一定数いるだろうということを想定し、有料化の意義を理解してもらうことで、レジ袋辞退率を上げることをねらいとした。

③はレジ袋辞退者に対してポイントを付与し、一定のポイントが貯まると市内で使える地域通貨としてポイントが利用できる制度を導入することで、レジ袋の辞退率を上げることをねらいとした。(この取り組みは平成18年から平成27年に北九州市で行われ、一定の成果を挙げたため終了した「キャンパスシール事業」を先行事例として参考にした。)

提出した陳情書は第22号議案として受理され、審議の対象となった。(補足資料②)



陳情書を提出した時の様子

新見市は高梁川源流のまち。

将来的には、一切レジ袋を使わない新見市を実現しなくてはならないと思っています。

と、市議会議長の藤澤正則さんに

言っていました！



議会での趣旨説明の様子
(市議会だよりの表紙を飾りました)



どのような審議がされるのか
議会の様子を傍聴

結果として、この陳情は「②レジ袋有料化の意義についての広報活動」のみが採択され、他の2つは不採択となった。(補足資料④)

自分たちなりに先行事例を調べたり、提案の実現に向けてかかる経費を概算したり、質疑応答のシミュレーションを行うなど、高校生としてできるだけ準備と説明をしたつもりであったが、市議会を動かすことはできなかった。しかし、市議会議員のみなさんは、新見市内のエコバックの利用状況について調査してくださり、議会でも慎重な審議をしていただき、一部の方は全面的な採択やその趣旨を認める「趣旨採択」を推してくださるなど、私たちの思いを尊重してくださっていることが十分すぎるほど伝わった。

一部採択という結果は不本意だったが、私たちの考えを認めてくださった市役所の方が、不法投棄に関する市のホームページを改善してくださるなど、私たちが考え、行動したことが次に繋がっていったことはうれしかった。

不法投棄の通報先がわかりづらかったホームページに、一目でわかるように担当課の連絡先を大きく入れていただきました。

不法投棄は犯罪です！

産業廃棄物や燃やごみ、家庭ごみなどをすべて資源物や公共の場や道路、個人の土地などに捨てたり放置したりすること(不法投棄)は、資源物の紛失及び清掃に関する法律(資源物処理法)により禁止されています。

罪状の異なる場合であっても、産業物やごみなどを捨てた場合は不法投棄に該当します。

○不法投棄を行った場合は5年以下の懲役もしくは、100万円以下の罰金が科せられ、未遂も罰せられます。また、法人についてもその発着に際して不法投棄を行った場合は、3年以下の懲役が科せられます。

○不法投棄された廃棄物手配しましたら
その土地の管理をする部署または新見市役所建設部環境課
(0867-72-8124) および警察
課(0867-72-0110)までご連絡ください。

○個人の所有地に不法投棄された場合
投棄者が判明しない場合、その土地の所有者または管理者が投棄物の撤去を行うこととなります。

○目撃されないように、ごみから隠蔽や偽装をすることで、不法投棄されにくい環境づくりをお願いします。



5. この思いを次につなげる「中学校での出前講座」

私たちの活動を知った市内中学校から、中学3年生に向けて話してほしいとオファーをいただき、出前講座を行った。内容はSDGsの概要と、その達成に向けた私たち新見高校生の活動。私たちが授業の内外で活動していく中で知ることができた海のごみをめぐる世界の状況や、新見市が様々な問題にどのように取り組んでいるか、市役所の方だけでなく様々な立場の人が新見市をより良いまちにするために努力していることなどを伝えた。中学生たちはとても真剣に話を聞き、話し合ってくれた。



<話を聞いた中学生たちの感想>

今回、インドネシアの海の問題、日本のレジ袋有料化の効果、上流のごみが海に流れ出てしまうことなど、たくさんの現状を教えていただき、とてもおどろいたし、参考になりました。レジ袋はできるだけ使わず、ポイ捨ては絶対にしないようにしようと思います。

SDGsについて初めて知りました。貧困や教育、環境など17分野の目標を2030年までに達成しないといけないなと思いました。それを達成するためには、まずは知ることが大事だなと思いました。(中略)新見には海が無いから関係ないと思っていたけど、川にごみを捨てたりする行為も汚染につながるので気をつけていきたいなと思いました。

海のことだけでなく、教育のことや平等についてなどたくさんの問題を世界全体で解決していこうとしているので、僕もその一人として自分にできることを探して実行していきたいと思いました。

私たちのメンバーは全員が高校3年生で、大学進学を機に市外へ出る者も多いが、思いは次の高校生たちにつなげることができたかもしれない。

6. まとめ・今後の展望

私たちは新見市のレジ袋利用率を減らし、川から海へ流れ出るプラスチックごみを減らすことで、「世界の環境に配慮したより魅力的なまち・新見市」を目指して活動してきた。中村君がインドネシア語で訴えたメッセージに私たちの心が動いたように、自分たちの目の届く範囲だけでなく、世界の環境にやさしいまちは誰にとっても魅力的で、何よりもそのまちに住む私たち自身がまちに誇りを持てると考えたからだ。新見市は歴史や自然、人の温かさなど、すでに魅力あふれるまちだが、さらに新見市に住んでいることを自慢できるようなまちにしたいと考えていた。様々な活動に取り組む度に、地元の新聞社やテレビ局などが取材してくださり、この思いは市内外の方々に伝えることができたと思う。また、新見市役所や新見市議会をはじめとした様々な立場の方が協力してくださったことで、思いを形にできた部分もあった。しかし、陳情の大きな部分が不採択となったことで、市全体に対して私たちが目指した最大の効果をあげることはできなかった。これは私たちがまだ十分に市の仕組みや経済の知識を知らず、私たちが実現しようとしたことの意義を十分に伝えることができなかったからだと考えている。

しかし、中学生が私たちの話にしっかりと耳を傾けてくれたように、この思いを後輩や新見市や世界のことを真剣に考える人に伝えることでバトンをつなぐことができる。今回の取り組みを通して、私たちは得がたい経験をすることができた。今後もそれぞれが大学や社会でさらに学び、経験を積み、次のフィールドで次の課題に向かって地域をより良く変えていきたいと考えている。

私たちの活動を支えてくださった方々

- | | | |
|-------------|-------------|----------------|
| ■新見市役所のみなさん | ■新見市議会のみなさん | ■水島地域環境再生財団 |
| ■新見市環境衛生協議会 | ■備北民放社 | ■株式会社吉備ケーブルテレビ |
| ■備北新聞社 | ■日東社（看板印刷） | ■新見高校の先生方 |

本当にありがとうございました。

岡山県立新見高等学校（普通科）3年 有志グループ

代表：池田 晃大

副代表：澤山 結衣

- ・飯野 葵 ・生田 美岬・石橋 杏菜・榎 聡祐・加藤 悠・川上 那央・久保木 涼太
 ・新地 優歌・富谷 暁・中村 太郎・長谷川 達也・平田 歩乃佳・廣瀬 裕加
 ・船曳 亜侑・真壁 沙希・森次 裕大・森本 永遠・森脇 朋美・山口 海斗
 ・山口 貴巨・吉尾 朱音 (以上23名)

添付資料②「実際に市議会に提出した陳情書」

令和2年2月7日

新見市議会議長 藤澤 正 則 様

陳情者

岡山県新見市新見1394

岡山県立新見高等学校南校地

代 表 飯 野 葵

新見市のごみ問題に関する対策の陳情

【陳情の趣旨】

私たちは主権者教育の調べ学習を通して、世界中で毎年少なくとも800万トンものプラスチックごみが海に流出していることを知りました。新見市には海がありませんが、高梁川の上流に位置しているため、プラスチックごみを川に流してしまうと川や海の汚染をより深刻にしてしまいます。実際、私たちの調査によって、新見市内の川には多くのプラスチックごみが投棄されている実態が明らかになっています。

岡山県では、「マイバッグキャンペーン」などの活動が行われていますが、新見市民の方々にはエコバッグ利用の活動があまり浸透していないように感じます。

そこで投棄されるごみを1つでも無くし、持続可能な社会の実現のために私たち市民にできることはないかと考えました。

まず、エコバッグの利用促進のために、市内の児童・生徒・学生への無料配布を行っていただきたいと考えています。配布するエコバッグのデザインは、市民の方々に募集し、投票で選ばれたものを採用していただきたいと考えています。デザインを市民の方々に募集することによって、そのこと自体がエコバッグの利用促進につながると私たちは期待しています。

これに加え、あらゆる市民の方々に「なぜレジ袋を有料化しなければいけないのか」という、レジ袋有料化の意義を広く伝えるための広報活動も、併せて充実していただきたいと考えます。

また、「エコマネー制度」を導入していただきたいと考えています。私たちが考えるエコマネー制度とは、レジ袋辞退者へポイントを付与し、割引券と交換できる仕組みを想定しています。この制度を導入することで、「数円程度なら支払ってレジ袋を購入したい」という人を減らし、レジ袋辞退率をより上げることができると考えています。

以上のことから、市民の方々により多くのエコバッグを利用いただき、環境に配慮した暮らしができる新見市を目指して、下記事項が実現されることを陳情いたします。

【陳情内容】

プラスチックごみを無くし、環境に配慮した暮らしができる新見市を目指して

- ①エコバッグの利用促進のため、児童・生徒・学生への無料配布
- ②レジ袋有料化の意義についての広報活動 ⇒市報にしみや告知放送を活用したエコバッグ利用の呼びかけ
- ③エコマネー制度の導入 ⇒レジ袋辞退者へのポイント付与と割引券の配布

添付資料③「議会で趣旨説明を行った際の原稿」

本日は、このようなお時間をいただきありがとうございます。

私たち新見高校2年生は、主催者教育の一環として、新見市をより良い街にするための取り組みを行ってきました。まず、この陳情に至った経緯からお話しさせていただきます。

私たちは、SDG8番号14「海の豊かさを守ろう」に関して、新見市にできることを考えてきました。現在、世界中で毎年少なくとも、800万トンものプラスチックごみが海に流出していると考えられています。2016年に行われた世界経済フォーラム年次総会「ダボス会議」において、「2050年には海に捨てられたプラスチックごみの量が、魚の量を越えるのではないか。」という発表がされたほど、この問題は深刻化してきています。

私たちが住んでいる新見市には海はありません。しかし、高梁川の上流に位置しているため、プラスチックごみを川に流してしまうと、川や海の汚染をより大きなものにしてしまいます。また、岡山県では、「おかやまマイバッグキャンペーン」などの活動が行われていますが、市民の方々にエコバッグ持参の活動があまり広がっていないと思われます。

そこで、投棄されるごみを1つでも無くし、持続可能な社会の実現のために私たち市民にできることはないかと考えました。

それでは、これから『新見市のごみ問題に関する対策について』その陳情の内容をご説明させていただきます。まず、エコバッグの無料配布についてです。エコバッグの利用促進のために、市内の児童・生徒・学生への無料配布を行っていただきたいと考えています。これにより、将来を担う子供たちの環境に対する関心を高めるとともに、保護者へエコバッグの利用を促す効果があると考え、学生を配布対象としました。配布するエコバッグのデザインは、市民の方々に募集し、投票で選ばれたものを採用していただきたいと考えています。デザインを市民の方々に募集することによって、そのこと自体がエコバッグの利用促進につながると私たちは期待しています。

日本では、今年7月から、レジ袋の有料化が義務付けられることが決まっています。ここでは、レジ袋1枚につき2円～5円程度で各事業者が自由に価格設定を行います。しかし、私たちは、2円～5円程度なら、払ってでもレジ袋を利用するという人もいるのではないかと考え、あらゆる市民の方々に「なぜレジ袋を有料化しなければいけないのか？」という、レジ袋有料化の意義を広く伝えるための広報活動も、充実していただきたいと考えました。広報活動は、主に、市報にのみや告知放送などを活用できるのではないかと考えています。

また、「エコマネー制度」も導入していただきたいと考えています。私たちが考えるエコマネー制度とは、レジ袋辞退者へポイントを付与し、割引券と交換できる仕組みを想定しています。この制度を導入することで、「数円程度なら支払ってレジ袋を購入したい」という人を減らし、レジ袋辞退率をより上げることができると考えています。実際に地域通貨を導入していた地域に福岡県北九州市があります。福岡県北九州市では、平成18～27年まで、全市共通ノーレジ袋ポイントシール事業、通称「キャンパスシール事業」を行っていました。これは、200円以上の買い物をしたお客さんが、レジ袋を断った場合、ポイントをシールとして受け取り、20ポイント貯まると50円割引券として利用できるというものです。この取り組みの結果、レジ袋1億2,300万枚の削減に成功しました。これは、ドラム缶11,300本分の原糖、7,420トン分の二酸化炭素の量に相当します。新見市でも同様の活動ができると考えます。単に有料化するだけでなく、これらの活動を組み合わせることで、市民が環境のことを考え、レジ袋をはじめとしたプラスチックごみの削減に取り組むことができると私たちは考えています。

以上のことから、市民の方々により多くのエコバッグを利用いただき、環境に配慮した暮らしができる新見市を目指して、『新見市のごみ問題に関する対策の陳情』をいたします。

ご静聴ありがとうございました。

添付資料④「陳情の審査結果（通知）」

新 議 第 84 号
 令 和 2 年 7 月 1 日

岡山県新見市新見1394
 岡山県立新見高等学校南校地
 代表 飯野 葵 様

新見市議会議長 藤 澤 正 則



陳情の審査結果について（通知）

令和2年2月7日付けで貴殿から提出された陳情は、本会議において審査の結果、下記のとおり決定されましたので通知します。

記

1 陳情事件名

陳情第22号 新見市のごみ問題に関する対策の陳情

2 結 果

本件は、一部採択に決定しました。

「①エコバッグの利用促進のため、児童・生徒・学生への無料配布」及び「③エコマネー制度の導入」を除き、「②レジ袋有料化の意義についての広報活動」を一部採択することに決定した。